

厚木連合戸陵会だより



代表取締役 内田徳孝 (高10回)
厚木市下荻野483 TEL.046-241-1646

戸陵会だより ●発行=県立厚木高校同窓会(厚木連合戸陵会) ●発行責任者=石川範義 ●厚木市中町4-12-10 ☎046-223-3458 FAX.046-221-0540

19年度同窓会総会開催される

19年度の同窓会総会は去る6月30日(土)13時より厚木商工会議所5階大会議室において開催されました。参加者は100

余名。事務局長の大津博康さん(高10回)の司会進行で始まり、議長には座間茂俊さん(高2回)が、会次第は左記の通りです。

- 1、開会の辞 中丸英一副会長
- 2、会長挨拶 小沢純男会長
- 3、学校長挨拶 堀英雄校長
- 4、来賓挨拶
- 5、議事(議長選出)
- 18年度事業報告 志村裕一
- 会計決算報告 足立原泰
- 会計監査報告 大野訓男 八木
- 19年度事業計画案 志村裕一
- 会計予算案 足立原泰
- その他
- 6、報告事項
 - 学校報告*進路状況(須藤福治)
 - 部活状況(内田憲夫)
 - *かながわ校歌祭について
- 7、閉会の辞 梅沢行次副会長
- 8、講演会
 - 講師/小島琉球大学名誉教授
 - 演題/正倉院の天平10年の記録から(国分寺、大山、丹沢の歴史を語る)
 - *講演会後、集合記念写真撮影
 - *懇親会 午後3時より
 - 閉会の辞 瀬古宏孝副会長
 - 閉会の辞 近藤俊二副会長



平成19年度 厚木連合戸陵会総会の同窓諸氏 平成19年7月30日

19年度 連合戸陵会総会開催

去る7月30日(月)18時より飯山元湯旅館に於いて常任幹事44名が参加し、19年度の連合戸陵会総会が開かれました。当日は統一地方選、参議院選挙投票日の翌日であった。歴史的な敗北、歴史的な猛暑などという大げさな言葉が飛び交う日でした。同窓諸氏の顔にも悲喜交々の様子が見て取れました。石川会長挨拶のあと、桜井晃さんが議長に選出され、議事進行されました。第1号議案である18年度の事業報告が杉田幹事

第2回厚木連合戸陵会ゴルフコンペを開催します。ふるつてご参加ください

厚木連合戸陵会ゴルフ委員会委員長 森久保純生(高16回、小鮎戸陵会)

さる7月30日に厚木連合戸陵会の総会が開催され、提案された議案も原案どおり可決されました。

その19年度事業計画に会員相互の親睦と情報交換、そして体力増強を兼ねてゴルフコンペが企画されており、その大役をいきなり任せられ戸惑っていました。幸いにして各戸陵会のゴルフ委員の皆様が、経験豊富で意気込みがある方ばかりでしたので、今はホッとしております。

来る9月26日、清川カントリークラブで「三剣光り輝く厚木連合戸陵会ゴルフコンペ」を開催いたします。近頃では熊まで出没しますので動物園は不要なところです。

また、農家の方がたは呆れ返って、今では、餌作りをしているみたいだ」と言っておられます。長閑な雰囲気味わえる小鮎地区ではありますが、我が後輩達は時代のなかで力強く躍動しております。

「全米チアダンス選手権04」で総合グランプリを獲得したインビシジュの部長田尻光さんやミス日本コンテストでグランプリを獲得した小久保利恵さん、そして、厚高卒業生ではありませんがWBCで初代の王者になった王ジャパンのメンバーだった多村仁選手は、自然豊かなこの小鮎地区

今回の総会の話題は「厚高が県の進学重点校指定から漏れたのは、何故か。」というものでした。

堀英雄校長の説明によれば、厚高は独自入試を実施しておらず、計画書の内容の評価が低かった、と考えられる。残念と言えは残念だが、指定を受けずとも厚高は進学に重点を置き、と話す。希望ヶ丘高や相模原高などと共に「発展的な学方向上重点推進校」に指定されている。これは生徒一人一人の進学希望にこたえる授業を展開していくというもの。オリエンテーションの充実、質問教室の用意などすでに新たな進学指導体制で走り始めていると言う事である。

長より、収支決算報告が足立原強会計担当より提案され、各々満場一致で承認されました。続いて第2号議案の19年度事業計画案および予算案が提案され、各々承認されました。今年の計画案を少し説明しておきます。

1、学校の諸行事に積極的に参加。特に野球の応援と戸陵祭に因しては同窓への情宣活動を積極的に、参加者を増やす。

2、同窓会本部との連携強化。母校の発展と繁栄にはさらに本部との連携を密にし協力していくことが必要。4月、10月の半原同窓林の整備事業に積極参加する。

同窓会総会への参加、協力。10月のかながわ校歌祭への積極参加。

3、支部戸陵会、地区戸陵会との積極的な交流を計る。各地区の事業には積極的な参加をし、交流と理解を深め合う。

4、厚木連合戸陵会主催の第2回目ゴルフコンペを開催する。9月26日、会場は清川CCの予定。

5、広報紙戸陵会だよりの第2号目の発行(9月1日号として)以上。

副委員長 松本一郎(荻野・高12)

副委員長 沼田春美(南毛利・高15)

委員 黄金井哲也(玉川森の里・高18)

委員 中山和男(睦合・高26)

委員 小塩恒夫(相川・高22)

委員 上原 誠(厚木・高20)

望みが沸き、趣きに親しむ、かくれ里の隠れた魅力。

あつぎ飯山温泉

元湯旅館

代表取締役 石川範義 (高10回)

神奈川県厚木市飯山4916
TEL.046-242-0008(代) FAX.046-241-8975
●東京案内TEL.03-3207-0008 ●URL <http://www.motoyu.co.jp/>

エネルギーをより高い付加価値に昇華することが、私たちの使命です。

- 住環境の整備 (コミュニティー開発事業)
- 都市機能の充実 (都市再開発事業)
- 土地を活かす (不動産活用事業)
- 創造のテクノロジー (建設事業)
- 快適な住まい (住宅事業)
- 円滑な住みかえ (仲介事業)
- 都市型空間の提供 (賃貸事業)
- 総合的な安心 (設計・開発・管理・アフターサービス)

代表取締役 杉田泰繁 (高14回)

SUGITA (株)杉田商事

厚木市旭町2-1-17中川ビル1階 TEL.046-228-4581 FAX.046-228-6078

ISO9001・ISO9001認証取得

MSA QS-570 MSA ES-446

JAB QSEM Accreditation R 023.RE 019

建設新時代の幕開けに山善ルネッサンスは動き出します!

未来(あした)への夢がある。大地の声に耳を傾け謙虚に応える。そこに未来(あした)が生まれる。全ては人と社会に役立つために!

<http://www.yamazzen.co.jp>

株式会社山善

代表取締役 山本善一(高30回)

本社/ 千243-0112神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷3041
TEL.046-288-1345 FAX.046-288-1222

ブラジル・サンパウロ州軍警察で日本の交番システムの定着を図っています。石井孝(高28回)

日本の反対側サン・パウロにて昨年9月、南毛利戸陵会の先輩方に励まされて、日本警察の専門家としてサン・パウロ州軍警察に赴任しました。日本の交番システムの導入、定着を通じて、同州の治安改善に寄与するというプロジェクトに携わっています。一日に四季があると言われるほど寒暖の差が激しいサン・パウロで生活しながら、ブラジル文化、風習、自然や日本人移民の方々の苦勞、その100年の歴史などに驚きと感激を感じています。



石井さんの左は日系二世の千葉さん

伝説の人故郷に帰る

葉山岳夫弁護士

(高7回)

葉山岳夫さんは昭和11年生まれで今年71歳。俗に言う“60年安保世代”です。筆者は団塊の世代、全共闘世代と呼ばれた10歳下の世代。厚高時代、周囲に葉山さんの詳細な行状を知っているもの等皆無だった。当時は、いわく、全学連の親玉で厚高出の東大生“だとか”同じ厚高の先輩茅東大総長とやりあった全学連の闘士“だとか”、この程度の“風聞上のヒーロー”が我々の葉山岳夫だったように思う。上の世代、同世代は、葉山さんの詳細を承知していたのであろうが、“伝説の人”に面会して

一つだけ分かったことは、戦後日本、特に高度成長が始まった昭和35年前後から現在までの50年間、葉山さんは、ふたつの最大にして最長の住民闘争に直接キイマンとして関わってこられたことだ。ひとは60年の安保改定反対闘争には学生として関わり、ふたつ目は62年以降に始まった成田空港三里塚住民闘争。これには66年頃から弁護士として、弁護団事務局長として関わり、重責を負って41年目になるのである。60年の安保改定を翌年に控えた59年、第8次統一行動で全学

連の学生が国会の正門を突破、国会内へ突入、デモもやりたい放題という騒乱を起こした。この時葉山さんは東大法学部自治会委員長であった。騒乱の首謀者として全学連の7人が、指名手配された。当然葉山さんもそのうちのひとりである。結局逮捕される事になる。50日間の勾留となった。しかし闘士はしたかである。この期間に、かのマルクスの資本論全巻を読破したのでそうである。2年遅れで東大法学部を卒業。弁護士になると、成田空港建設反対の住民闘争に関わることになったのである。

闘争、闘争の連続、50年もの間、よく身体と頭が壊れないもの、と心配すると、大丈夫寝ながら考えたりしているから、だ。とにかく存在感のある先輩である。厚木にもどる、故郷におかえりしなければ、この思いで活動拠点をさがしているとのことである。(大塚憲一記)

厚木市を創りあげたもう一方の巨星 石井忠重さん逝く!! (87歳、中32回)

日本の高度成長期の初め、昭和34年、石井さんは市議1期を経て、38歳の若さで2代目の厚木市長となった。以来、5期20年にわたり厚木市の基礎づくりを尽力されました。3代目の市長、故足立原茂徳さんとは厚木中学時代の同期生であったこと

はよく知られている。厚木市の草創期、甚大な貢献をされた両氏であるが、同窓生周辺からはついにふたつの巨星落つ、かと思しむ声が多かった。お通夜、告別式は8月11日、12日両日、市内の白雲閣で執り行われ、ご冥福をお祈りします。

“定年からの挑戦”をして、池田智子さん 「池田家の人々」を刊行。 念願の作家デビュー (高14回)

池田さんは戸陵の岡で高校生生活を送っていた頃からの「作家への夢」に挑戦している。定年退職の一年前から執筆活動を始め、四年目で作家デビューを果たしました。作品はエッセイ集で「池田家の人々」(日本文学館発行)です。この家庭にもある日常の出来事をユーモラスにとらえた内容で発売後二ヶ月で増刷となりました。読み終わった時、「生きるって楽しいなあ!」と思えるって楽しいなあ!と思えるって楽しいなあ!

同窓の皆さまにも、是非読んで下さるようお願いいたします。書店でお求め頂くか、クロネコヤマトのブックサービス(0120・29・9625)ですと送料はかかりませんが便利です。池田さんは「人生最後のラブ・ストーリー」をテーマに現在小説に取り組んでいるとのこと、ご活躍を祈ります。



(高14回)

ダンドリ出身、劇団扉座の山下幸乃さん

厚木市・夏の音楽祭の司会進行役で大活躍

(高55回)



山下幸乃さん(高55回卒、厚木市愛甲居住)はこの夏(7/28、29)開催された「あつぎ夏の音楽祭」で「市民のステージ」「わがまちの音を創る」の2ステージの司会を務めた。山下さんは厚木高校創立100周年の記念事業の一環で行なわれた扉座(厚高OBの横内謙介氏主宰)の公演を観て感動し、大学進学をやめ扉座に入団した俳優。現在扉座の公演に出演しているほか、昨年放映されたテレビドラマ「ダンドリ」にも出演、活躍している。高校時代はダンドリ部で活躍、全国大会で優勝した経歴を持つ。今後の俳優としての活動は「ドリル魂」ガガガガガ(千葉美浜文化ホール、9/22、23)池袋サンシャイン劇場9/29、30)を予定している。山下さんのブログ(扉座ホームページ)から山下幸乃のブログを覗いてください。

世界で活躍するサックス奏者 平野公崇さん (高40回)



デックス国際コンクールで日本人サックスソリストとして初の優勝者となった人だ。平野さんは南毛利中学でサックスを始め、厚木高校ではブラスバンド活動に明け暮れていたと言います。当厚木には厚高100周年記念のイベントで演奏を披露して以来、今年5月5日のことこの日にピアノとベースとサックスのトリオでジャズコンサートを開催、文化会館小ホールを満席にし成功させた。7月28日には「あつぎ夏の音楽祭」

平野公崇(まさたか)さんは戸出身で東京芸大在学中日本管打楽器コンクール第1位、その後バリ高等音楽院入学、最優秀の成績で卒業。在学中にロン

にも出演、喝采を受けていた。現在は東京芸大、東邦音楽大、エリザベト音楽大学等で講師を務め後進の指導をする傍ら、「バイパス」、「バンドジャナーナ」の音楽誌にエッセイも連載し、執筆活動もしている。この夏は8月にスペインでのコンサートの後、パリで世界のサックス奏者を集めての講習会で講師を務めた。世界最高水準のテクニクとクラシック、ジャズ他とジャンルの壁を越える音楽性で新しい境地を開拓し続ける平野さん。厚高同窓生のファンも急増し、今後大きな活躍が期待できるアーティストとして後援会設立の話まで持ち上がってきている様子だ。

木材、住宅機器販売
神奈川県産材販売
在来工法によるプレカット加工

株式会社 市川屋
 代表取締役 市川英美(高14回)

〒243-0121 厚木市七沢305
☎046-248-0231 FAX.046-248-4160

◆造園・設計・施工・全般
 ◆庭や樹木に関するご相談
 等お気軽にどうぞ。

(株)大木ガーデン
 代表取締役 大木幹雄 (高22回)

〒243-0036 厚木市長谷1552
☎046-247-1568 Fax 046247-9580

内科・循環器科
心療内科

厚木ハートケアクリニック

<http://www.atsugi-heartcare.com>

難波 智 (中42回) 院長 循環器専門医 伴野富佐子(旧姓・難波) (高37回)

〒243-0203 厚木市下荻野1393-1

〒243-0203 厚木市下荻野1476-1
 ソルローマ本厚木1F
 TEL 046-243-5533
 FAX 046-243-5503

早大空手部が、わが武道人生の出発点

川鍋武道館50周年を迎える!!

思えば遠く彼方の追憶になるが昭和22年と思うが、厚木高校の投手として対湘南高校と対戦した時の思い出だ、厚木が2対1とリードし9回2死とし、後一人の土壇場で痛恨のレフトへの安打を打たれてしまった、野手のホームへの絶妙な返球もクロスプレーで2点取られ、ドラマチックな逆転負けに終わり、悔し涙を流した思い出で、わが青春ドラマの忘れぬ思い出である。その後の大学での空手部生活は私の武道人生の出発点となった。

当時の大学の稽古はルールのない野蛮な稽古で、武道とは言えないものだった。

昭和33年、旧厚木町内に道場を開設以来今年度平成19年は50周年を迎える。

S・6年4月生 厚木高校2年生 早稲田大学文 S29年卒

220年前から続く、野鍛冶業 五代目、安齋功男さん(81歳) かくしやくと今も……(中38回)



安齋家は、今から220年前、江戸時代の天明7年に現厚木市飯山の地に野鍛冶業を創設しました。安齋功男氏は5代目当主となります。

大正15年生れの同氏は、現在81歳と思えないほど若々しく、健康的な生活を送っています。今では、注文に応じて農具の鎌、鋏の製造や修理を行っています。同氏の造る鎌は、材料となる鉄の鍛え方がしっかりしていて丈夫で長持ち。まだまだ多くのファンがおります。ただ

周年に当たり、過日祝賀会と行った際にはアメリカやチリの遠方から40余名の参加者があり演武後のパーティーでは楽ししい一時を過ごした。アメリカの門下生との関係は35年にもなるが、稽古に対する真摯な情熱や精神そして誠意と真実の交際は武士道や広義の道を求める人間性の当然の帰結する処でありましょう。現在の体主霊従魂属から真の日本の伝統武道の本質の霊主魂属体従の精神や姿が広く世に流布されるとき、住み良い人の世が生まれる事を夢見ております。



川鍋武道館 創立50周年記念大会

定年後里山に生きて

七沢里山づくり、児童の農作業体験学習の指導にうちこむ佐藤忠男さん(高10回)

団塊の世代の人達の定年が始まっています。私も四十年間のサラリーマン生活を六年前に終りました。

今は、水稲、野菜等自作する傍ら、自分を育ててくれた自然豊かな七沢の地で、地域のため



佐藤忠男さん(高10回)が七沢里山づくりの現場で作業中。

「オーイ」と呼ぶ声が聞こえる。同級生の水島君の声である。私が外へ出るとまだ夜明け前で暗く、空には星が輝いている。吐く息が白い。2人は語り合いながら、尼寺原の道を学校めざして歩いたのです。

フォーク歌手なぎら健吉さんを招いて、三世交代交流フォーラムを開催。

厚木南地区・青少年健全育成会会長 新川勉(高30回)

6月10日、大雨の中厚木第二小学校でなぎら健吉氏による三世交代交流フォーラムを開催いたしました。主催は厚木南地区青少年健全育成会、後援は厚木中学校、厚木小学校、厚木第二小学校の各PTAで行いました。

このフォーラムは地域の交流が無くなり、地域で子どもを育てていく、そんな環境が少なくなってきた今日、「3丁目の夕日」のような貧しくて人々の触れ合いが大事にされ、地域で子ども達を優しく見守った時代にあってはゲームばかりし

この人達との繋がりが、本当に楽しくいろいろな知識を得、勉強になっています。

お米を作るには、ご飯になるまで八十八の手数がかかるからだと昔からいわれています。だからお米は大切なものです。というように話をししてやります。

作業の終わった後、草原で昆虫を追いかけたりしてはつらつと遊ぶ子供達をみて農業の楽しさ、大切さを少しでも感じてくれたかなとおもいつつ、私なりの生きがいを感じる時間です。

小さな活動の二つめとして、七沢里山づくりについて述べてみます。

十年前、当時の自治会長九名が中心となり、山の荒廃を少しでも防ぐために、くぬぎ、榎等使われなくなった木を利用して、炭焼きを始めたのが発端です。

炭焼き釜も三十年間使われていなかった釜を修復して始めました。

その後、この会も広がりをみせ、現在、四十歳から八十歳まで総勢五十名のメンバーで構成されています。

活動拠点は七沢の奥、広沢寺の近くにあり、炭焼き釜も造り変えました。

メンバーは農家の人だけでなく、いろいろな職種の人があります。

あれもこれも気軽に頼めて、もっとわがままを聞いてくれる、**ご高齢者のための暮らしのお手伝いサービス**ないかしら?

- 公的介護保険でできないこと(例:同居する家族のための家事や草取り)
- 身体介護や見守りも
- 一回だけのご利用も
- 専門教育を受けたスタッフ、ご本人と気が合う決まったスタッフが訪問
- 年末年始やゴールデンウィーク、お盆も
- 外出の付き添いや施設などのお手伝いも
- 24時間365日対応、緊急時にも対応
- サービスエリア内なら料金は交通費込み
- お掃除や料理づくりなどの家事も

ホームインステッド 厚木ステーション
〒243-0201 厚木市上荻野360
0120-003-721
FAX046-241-2638

取締役会長 三橋成章 (高11回)

地元特産の鮎料理が味わえる 懐かしい霧田気の居酒屋

創業32年 厚木生まれ厚木育ちの居酒屋です

お酒茶屋 花の木
オーナー 溝呂木孝一(中41回)
厚木市中町2-4-14
ミスド本厚木店2・3・4F
046-223-0522

11:30~14:00
16:30~23:30
日曜・祝日定休(但し、予約承ります)

つるくぼ 耳鼻咽喉科

日本医科大学講師・つるくぼ耳鼻咽喉科院長
医学博士 鶴窪一行 (高26回)

診療所/〒243-0018 厚木市中町3-3-22
TEL.046-221-4187 FAX.046-225-4133

『毛利氏』発祥の地、下古沢

北村精一(中27回)、露木国寛(高17回)両氏の研究 成果を引き継がねばと、有志立ち上がる。



戸陵より阿夫利嶺を臨む方角 かな山村ですが、平成4年から旧小鮎村下古沢地区がありま 注目を集めるようになりました。調整区域のせいか一見のど

先輩を訪ねて 倉橋羊村さん (中43回/現代俳句協会副会長)

「昭和20年8月厚木中学2年。機銃掃射に脅されつつ半原の造兵廠で終戦を迎えた」



同窓会の名簿をめくりながら、ある同窓生の所在を確かめていた。偶然目に留まった「倉橋羊村」という名前。もしやこの人は、まさか、と思いつつ直接本人に電話したところ、まさかのご本人であることを突き止めたのでした。

「倉橋羊村」という名前は俳句に関わっている人ならばたいはい知っている。俳壇では有名な、重鎮であるのです。筆者は俳句の初学者、作品、名前は知っていたのです。俳壇、文壇で大活躍の先輩が「発見」されたとなれば、同窓の諸氏に紹介する義務を持たされるのが広報担当、とばかりさっそく世田谷のご自宅へ押し掛け、お目にかかってきたのでした。

元就を主人公にしたストーリーが展開されたからです。毛利氏は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の招きにより京都から鎌倉へ下り公文所の別当として活躍した大江広元の四男季光が莊園を譲り受け、毛利を名乗った事から始まります。宝治の合戦1247年に際し一族は執権北条氏に滅ぼされましたが、その時、越後の国に下向していた毛利季光の子、経光は難を逃れた。領地も越後国佐橋荘(新潟県柏崎市)安芸国吉田荘等が安堵されたので経光は佐橋荘で北条(きたじょう)その子、時親は南条(なんじょう)と名乗り両子孫とも戦国時代にも活躍しました。

西国最大の戦国大名となった毛利元就は南条から別れて吉田荘に移り住んだ親衛の子孫で、初代季光から数えて十代目となります。この元就の武威については皆様がご存知の通りです。では毛利の発祥地は何処なのか、多くの郷土歴史家の方々がその館を特定すべく研究をし発表をしていますが、その中で「史跡名勝天然記念物調査報告書第7集」神奈川県(昭和14年発行)によれば、「……即ち小鮎村下古沢の宮崎なる地名がそれ、……中略……」付近に駒飼、宮田、奥宮、梅見里等地名がある。これらの調査をされた吉岡正雄先生の論文をもとに郷土史を研究されていた北村精一さん(中27回)達はその場所を長年の成果をふまえて下古沢の三島神社と特定されました。この三島神社は沼津の三島神社ではなく、瀬戸内海の大三島を祭つてある

のもなにか縁があるようです。平成4年厚木商工会の役員をされていた北村精一さん達は山口県防府市を訪問し毛利氏の発祥の地が特定したことを毛利家ゆかりの方々に報告されました。知らせを受けた人達は大変喜び長い間謎とされていたその場所を確認すべくバスをチャーターして厚木まで来られました。この時、商工会では毛利氏発祥の地と刻んだ石碑を用意し除幕式を地元の人達と共に盛大に執り行ないました。

この下古沢地区はまだまだ調査研究が必要なようです。研究家の露木国寛さんは志半ばで逝かれ、北村精一さんは御高齢な産とし、さらにこの地域を守りつつ調査をしていこう、と有志で研究会を発足しました。昨今のニュースでは鎌倉市が世界遺産に登録を働きかけていると聞き及びます。我々も先達先輩達の足跡をたいつつ武士道の原点である中世日本史研究していきたいと思います。志のある人はぜひご参加下さい。連絡先046・245・5488(天塚)



写真左は、大和西高校 井桁校長(高18回)、右は厚木高校 堀英雄校長

高校野球神奈川大会 今年はいく回戦で敗退

試合直前は、お互いの健闘をたたえあい、固い握手。(小田原球場) ※残念ながら、わが校は、大和西の18安打の猛攻に屈し、7回1対4で敗退。空手で鍛えたわが校同窓生の井桁修の勝利への執念と気迫に圧倒されたか、ともつばらのうわさ。



第2回校歌祭のお知らせ

昨年の秋に初めて開催された。会場/神奈川県立青少年県立高校22校が集結。同窓会諸氏と現役生徒たちがともに参加し、マスコミや県議会会館の応援もあり大成功をおさめた。ほとんどの学校から「続けてやるべし」という反応をもらい、第2回目の開催となった。昨年参加出来なかった同窓生諸氏よ、今年ぜひ参加して下さい。意外な同期生、同窓生と巡り会えますよ。日時/平成19年10月13日(土)午後12時30分〜午後5時

近藤俊二まで。

小学6年の夏、海洋少年団に入った。昭和7年にできた団体で、海国日本の将来を担う12歳から17歳までの愛国少年を募っていた。父が海軍軍医少佐、兄が学徒出陣の海軍主計少尉で共に南方戦線へ出征していた。

赤禰で泳ぎし海洋少年団 団員の少年達は、みな赤禰を締めていた。3尺ではなく、越中禰である。海洋少年団の歌があり、同じ小学校から参加した最年少組の私達も、元気に声を揃えて合唱した。「記憶いまでも滴る海洋少年団」の句もある。

なかつた。長距離を自転車で通い、暑い季節に入っていたので、民家の軒先を借りて休息を取るときは、端居してほんやり空を眺めたりしたものである。次の句も往時を回顧した句。 かなかなや陰画となりし兵の列 米軍の上陸に備えての防禦措置を講ずるため、兵隊ほか我々までの人力が投入された。 未帰還機待つ炎天下少年期 厚木飛行場管轄の中津飛行場へ

- ◆倉橋羊村プロフィール 昭和6年 横浜生まれ 青山学院大学経済学部卒 昭和27年 水原秋桜子に師事 平成元年 「波」を継承主宰 平成15年 第21回日本文芸大賞受賞 現代俳句協会副会長、日本ペンクラブ理事、 日本文芸家協会会員、国際俳句交流協会副会長、 日本現代詩歌文学館振興会副会長 読売、南日本新聞俳壇選者 NHK、読売文化センター講師 ●主要著書 「水原秋桜子」人間虚子「秋桜子とその時代」道元「道元の発音」 「俳壇百人上下」師弟炎炎 「魅力ある文人たち」禅僧山頭火 「俳句実作辞典」俳句添削入門「他多数 句集「渾身」愛語「有時」打座「他」自解「00句選倉橋羊村集」など

第2回 かながわ校歌祭参加申込書

戸陵会

- 氏名(卒業回) () (中 ・ 高 回卒)
- 住所 (〒) ()
- 電話番号 ()
- 所属戸陵会 () 戸陵会、両青会、支部会)
- 三剣校章入りネクタイ(3,500円)の 購入希望 (有 無)

昭和6年生まれの俳人たち 焦土を超えて

北浪社

激動の生きざまと感受性が 俳句界に新風を巻き起こす

モノの無い時代に生まれ、思春期を戦争の暗雲の中で過ごす。焦土の青春時代を超えて、成長を遂げた日本復興と共に生きてきた一群。それがまさに昭和6年生まれの宿命だったのである。 北浪社 定価：3000円(税別)